

森林の多面的機能の評価額

森林の多面的機能のうち公益にかかるものを、森林の公益的機能ともいう。それでは、わが国の森林が多面的機能を十全に果たすためには、いかなる条件が必要なのであろうか。

わが国の森林面積は、2,500万haであり、国土の67%を占める。うち、人工林が1,000万ha、天然林が1,500万haである。天然林は言葉の如くであり、放っておいても林相を変化させつつ、その機能を発揮する。

問題になるのは、人工林である。人工林は大体林相が安定する40年生くらいまでは、手入れをしなければ多面的機能を十全に発揮するような森林にはならない。

近年、林業経営はその不採算性から危機的状況が続いている。それに伴い、多くの林家が人工林の手入れをせず、荒廃林が多く出現している。これらの、荒廃林は、間伐をしていないことから、林地に太陽の光が届かず、下草が生育しない。そうなると、林地の表土は裸になり、雨で流されてしまう。多面的機能でもっとも評価額の大きい表面侵食防止機能が働かなくなる。水源涵養もおぼつかない。森林の多面的機能発揮には、是非人工林の手入れが必要であり、そのためには、林業の経

営を何らかの形で成り立たせることが必要である。そうでなければ、森林の多面的機能も「絵に描いた餅」である。森林環境税が16年11月現在、2県で実施済み、2県で導入決定済み、34都道県で検討中である。その目的は、まさに森林の多面的機能発揮のための諸施策の実施である。このような動きをさらに進めて行く必要がある。（秋山 孝臣）

森林の有する多面的機能の評価額

機能の種類	評価額(億円/年)
二酸化炭素吸収	12,391
化石燃料代替	2,261
表面侵食防止	282,565
表層崩壊防止	84,421
洪水緩和	64,686
水質源貯蔵留	87,407
水質浄化	146,361
保護・レクリエーション	22,546

(注1) 多面的機能のうち、貨幣評価が可能な一部の機能について、日本学術会議の討議内容を踏まえて評価したもの。

(注2) 多面的機能のうち一部の機能の評価にすぎないこと等から、合計額は記載していない。

(注3) 保健休養・やすらぎ機能については、機能のごく一部を対象とした試算。
(資料) 日本学術会議「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について(答申)」(平成13年11月1日)

*参考 農業の有する多面的機能の評価額

機能の種類	評価額(億円/年)
洪水防止機能	34,988
河川流況安定機能	14,633
地下水涵養機能	537
土壌浸食(流出)防止機能	3,318
土砂崩壊防止機能	4,782
有機性廃棄物処理機能	123
気候緩和機能	87
保健休養・やすらぎ機能	23,758

(資料) 同上